

F-27 衣・食生活管理における問題点—学童保育についての総合研究(4)
長崎女子短大 大坪藤代 楠本淑子 銀杏田弘子 浜田公子 他5名

目的・方法 (1),(2)に同じ。特に学童保育施設づくりのために、被服・食物管理の面で主婦専業の母親と共働きの母親との間にどのような差があるか、その問題点を明らかにすることを目的とする。

結果 1. 衣生活面について ①子供服に主として既製服を利用するかどうかは、母親が働いているかどうかよりも階層差の方が大きい。すなわちホワイトカラー層よりもブルーカラー層の方が既製服利用率が高い。②ねまきの着がえについては、階層別にはブルーカラー層、母親の職業別には有職者には必ずしも着がえない子供がほぼ半数に達している。③洗たく時間については、家庭にいる主婦の大多数が朝のうちにすませているのに対して、共働きの母親の多くが夜および入浴時に行っている。

2. 食生活面について ①食品購入・献立などの食生活面においては、大部分母親の責任のもとになされているが、共働き家庭では若干他の家族に依存する率が高い。②買物は大多数が習慣的に毎日行っている。今のところ食品のまとめ買いの習慣はない。③おやつについては、過半数が1日1回であるが、残りの半数が与える回数を決めていない。このことは躰および正規の食事に影響を与えること大である。④夕食時家族がそろうかについては、過半数が全員そろい、又階層別の差もあまりない。このことは、職場と住宅とが近接している地方都市の条件によるところが大きいと思われる。